



学校だより

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/akuwa/>



学校教育目標 ①いさつから輪を広げる子 ②ふうして学び続ける子 ③たしもあなたも命を大切にす子

チャレンジフェスタ2018

副校長 武藤 晋



天気にも恵まれ、5月26日（土）、子どもたちが待ちに待っていた『チャレンジフェスタ2018』が行われました。

今年度のスローガンは、『全力投球！めざせ！最高レベルのチャレンジフェスタ！！』でした。連休前から練習や準備が始まり、約1か月。どの子も一生懸命練習に取り組んでできました。今年の5月は、例年になく暑い日もあり、練習で汗だくになることもありましたが、当日が近づくとつれ、気合も入ってきたように感じました。

この一ヶ月、子ども達は、チャレンジフェスタの準備と練習にフル回転だったかと思えます。学年や全校での練習に加え、特に高学年は実行委員会の活動、特別チームの活動と大忙しでした。また、応援団やソーラン実行委員の呼びかけで、中休みは応援の練習、昼休みはソーラン節の練習に自主的に集まり、活動していました。応援団が考えた応援ダンスもほとんど休み時間の自主練習だけで立派な演技に仕上げました。ソーラン節の昼休み練習も、日に日に参加者が増え、最後の方は、全校練習のようでした。そのエネルギーと休み時間を使ってでも自分たちで取り組む姿に感心しました。

今年のチャレンジフェスタには新しい取組がいろいろありました。今年度から、阿久和小学校では、1年生から6年生までのたてわり活動に取り組み始めました。たてわりでの給食やなかよし活動、全校遠足などを経て、チャレンジフェスタでも、たてわりの競技や入場行進、座席など様々な場面に取り入れて取り組みました。また、ソーラン節の入場演技やそれぞれの競技でも、新しい工夫を取り入れました。そして、『最高レベル』に近づけようと、上級生が下級生を優しくリードしたり、下級生が上級生をまねて、一生懸命頑張ったり、学年を超えて協力し助け合う姿、また、自ら取り組もうとする姿を、練習の時からみることができました。その成果が、当日の演技や競技、係の仕事の様子など随所に表れていたと思えます。

今年のチャレンジフェスタで、素敵なエピソードがありました。毎年、全校で分担し、大樹会の方々に招待状を出しているのですが、当日受付にいらしたご婦人が、「招待状をくれた子に返事を書いてきました。」と手紙を渡してくださいました。そして、その子の名前を書いたうちわを持参して応援してくださいました。休憩時間に担任が招待状を書いた子を紹介させていただいたのですが、本人もとてもうれしそうにしていたようです。このように子ども達はたくさんの方々に支えられながら成長しているのだということ、改めて実感しました。

子ども達には、チャレンジフェスタでの経験を自信にして、日々の生活や学習に広げていってほしいと願っています。そして、子どもたちの輝く姿をたくさん引き出せるように、これからも、教職員一丸となって努力してまいります。保護者、地域の皆様には、子ども達にたくさんの声援を送っていただき、本当にありがとうございました。今後とも、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。